

令和元年度京都移転シミュレーション検証結果（案）

令和 2 年 9 月 14 日

文化庁移転協議会

1. 実施期間

令和元年 10 月～11 月（41 勤務日）

2. 実施内容

- 京都担当の次長は、期間中、原則週 3 日、執務を京都で行う。
- 京都移転予定課（政策課、文化資源活用課、文化財一課、文化財二課、宗務課）の職員は、1 週間ずつすべての執務を原則として京都で行う。
- 期間中、テレビ会議等が困難な執務が生じた場合は、東京にて対応する。

3. 検証結果

- 定例業務や、スケジュールの見通しがついている業務は、京都での処理が可能なものも多く、また、東京との連絡もテレビ会議等での対応が可能だった。
- 一方、10 月 31 日、首里城火災が発生し、東京において省内・関係府省との緊急の相談・調整を要することとなり、これらはテレビ会議等での対応が不可能となり、文化資源活用課はシミュレーションに参加できなかった。
- また、参事官（文化創造担当）は、既に京都で執務を行っており、シミュレーションの対象者ではなかったが、期間中、東京にて省内・関係府省との対応や、国会質問の対応の業務が発生し、一部職員が継続的に東京で執務を行った。
- 上記の事例を含め、テレビ会議で対応困難な事案対応について、すべて「東京ー京都」の出張で対応すると、相当な額の旅費が必要。
- なお、上記のとおり、期間中、文化庁の本格移転後に京都にて執務を行う課のうち 2 課が東京での執務を要したため、令和 2 年度に、改めてシミュレーションを行う。

令和元年度京都移転シミュレーションにおける対応実績

	合 計	テレビ会議	対面(出張含む)
①国会議員説明	171 回	3 回	168 回
②政党の会議出席	50 回	9 回	41 回
③国会質問対応	93 問	—	93 問
④報道対応	2 回	2 回	—